

地獄の底から生還した私の投資法      11月15日      吉村茂光  
(ノウハウはお金を払ってから、というはったりメルマガではありません)

損をする原因はただ一つしかない！！

相場で損をする原因は、突き詰めていくと一つしかありません。

<sup>おのれ</sup>己を知らないことです。

戦争でもけんかでも己を知っていれば、自分より強い相手とは絶対に戦わないし、弱い相手であればトコトンやっつける。

従って、己の手腕力量を知ればよほどの不運にでも見舞われない限り負けるはずはありません。

-----  
ところが己の手腕力量を客観的に知るということは意外にむずかしい  
-----

江戸時代から「自惚れとカサツ気」のない人間はいない、といわれている程人間は自分の能力を過大評価する傾向があります。

-----  
少なくとも私の知る範囲に限れば、株で破産した投資家は全てといほど過去の成功体験に毒された根拠のない自己過信の持ち主でした。  
-----

相場の上下変動は確率変動であると言われていています。もし、それが事実であれば(事実であることはノーベル賞を受賞した学者達により統計的に証明されています)そこに法則性を見いだすことには無理があります。

従って何らかの投資手法で一時的に相場が当たったり、儲かったりしたとしても、そこには偶然の要素がかなり入っていると謙虚に考えるべきでしょう。

それでは相場に勝にはどうしたらよいのか

- 1) まず「己の無知」を知ること、つまり「知らざるを知る」ソクラテス的な賢明さを持つことです。これが第一。
- 2) 次に、当たり前のこと(自明の理)以外は信じないことです。無論、世

の中には未だ解明されていない不思議なことが沢山あるのは事実です。しかし、そのメカニズムが解明されておらず、再現性もないものを信じて行動すると当然のことながら失敗する確率は高くなります。(孔子も「君子は怪力乱神を語らず」といっています)

3) 最後に相場変動は確率変動であり、確率変動に対応するには統計と確率しかあり得ないということを認識することです。

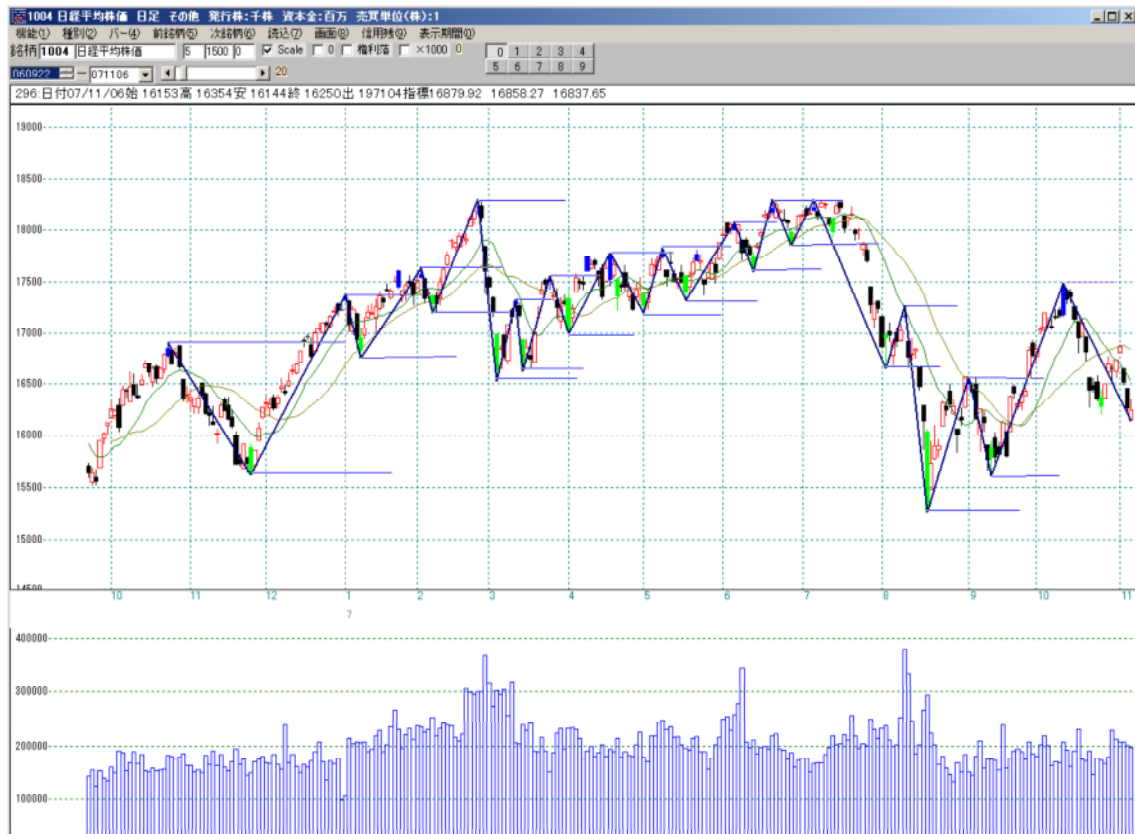
## 原則論はこの程度にして初歩的な投資手法を解説します

初歩的といっても所謂秘法本等<sup>いわゆる</sup>で高いお金を要求して解説している投資法に比べればはるかに合理的で役に立つはずです。

### ステップ 1

相場全般の流れを読むために日経平均の日足を表示する

図 1



### ステップ 2

ローソク足のノイズを消去するために

高値であれば左右 5 本の足がその日の高値より下であれば、その日を屈折点のピークと見なす。

同様に、ボトムは左右 5 本の足がその日の安値より上であれば、その日の安値を屈折点のボトムとみなす。

## 折れ線グラフの見方

- 1) ボトムラインが直前のボトムに比べ切り下がっていれば下げ相場と規定し買いを入れない。
- 2) ボトムラインが直前のボトムより切り上がっていれば上げ相場と規定し直前のピークを上回ったポイントで最初の個別銘柄の検索に入る。  
(但し、これは買い転換した最初の1回のみ行う)
- 3) 次の買い場は225平均が買い場にあり、STC(終値ベース)D%が20ポイント以下の時を個別銘柄の買いポイントと見なす。

## 個別銘柄の検索と売買法

- 1) 売買対象銘柄：日経225採用銘柄
- 2) 検索のタイミング(下図参照)

図 2



ボトムが切り上がり直前のピークを更新したポイントで下記のような買い検索をします。(但し、この検索は初回のみ適用)

- 1) **検索対象銘柄は225採用銘柄のみとする。**
- 2) **A：初回の買い転換時に限り周期3日のハイロー・バンド買い転換銘柄に絞る。**
- 2) **B：次回以降はSTC(終値ベース)D%が20%以下に絞る。**
- 3) 26日移動平均が上向きで13日移動平均の下にある銘柄に絞り込む。  
(第二回の買い場以降にのみ適用)
- 4) 6日出来高平均と比較して検索日の出来高倍率の低い順に5銘柄を最終売買銘柄として、これを全て最小単位でバスケット買いする。**但し初回**

に日経平均が買い転換した時は逆に出来高倍率の高い順に5銘柄を選択する。(この水準の高いところで買うので順張りを採用)

上記の検索の結果下記の銘柄が検出されました

2006-12-15 合格銘柄数:5

コード	銘柄名	株価	売買単位
1801	大成建設	366000	1000株
1812	鹿島	533000	1000株
1861	熊谷組	236000	1000株
1605	国際石油開発帝石	1,010,000	1株
3402	東レ	866000	1000株

3,011,000

合格銘柄の売買法

- 1) 合格5銘柄を最小売買単位で全銘柄バスケット買いする。  
(そのために上記5銘柄の時価総額チャートを作ります)



2回目以降の買いポイントにおける売買法は次回に解説します。

当メルマガの核は技術的解説の部分にあります。出来るだけ分かりやすく解説したつもりですが、技術的解説というのは文章で読むと退屈なもので、一つでも分からない部分があると投げ出してしまう傾向があります。その点を補うために弊社では小人数のセミナーを企画しています。ご希望の方は弊社までご連絡下さい。準備が出来次第、日時、場所等をメールでお知らせいたします。